

令和8年度 東札幌小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24009

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇「話したくなる・伝えたい授業」を目指して、1年で23の授業公開を行った。多くの授業実践に触れ、具体的な子どもの姿を通して、これまでの自分の授業を見直したり、新たな気づきがあったりと、授業力向上につながった。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、「PC・タブレットなどのICT機器を用いて、友達と協力しながら学習を進める」ことに肯定的な回答が全国に比べて多く、他者と共に協働的に学ぶ力が育ってきている。</p>	<p>◇「自分の意見を進んで発言しようとしている。」という共通指標アンケートの質問において肯定的な答えの割合が77.7%、「意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。」には82.3%と、話すことや書くことに対する自己評価が他の質問に比べて低い傾向にある。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」児童の割合が、全国平均に比べて低い数値である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇令和7年度札幌市全体の共通指標アンケートでは、「人の役に立ててうれしいと感じることがある。」「人の役に立つ人間になりたいと思う。」において肯定的な回答が94.0%、95.7%と自尊感情の高さが見られる。対して、「自分が必要とされていると感じる」では、81.0%と低い数値がみられた。自己有用感を高める取り組みが必要と考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に考え、個別に探究し、協働で学びを深める力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇研究主題「教職員の共創で高める、教育効果の高い学校研究」の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究の精選によって余白（ゆとり）を創出する。 ・生まれた余白で、日常の授業づくりを充実させる。 <p>◇具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マジックボックス研修…教員の関心がある教育テーマについて真剣（マジ）に語り合う。 ・授業実践宝箱…日常の授業で活用した資料や板書を共通のフォルダに保存することで、教職員全員の財産として蓄積・活用する。 ・参観授業…学年で授業づくりを行うことで、日常の取組を研修の場にすると共に、授業力の向上を目指す。 など 	<p>◇共通指標アンケートの結果を各委員会の委員長たちに提示することで、挨拶や読書等に課題があることを共有する。</p> <p>◇「〇〇月間」と称し、あいさつ、素敵な言葉遣い、給食、読書について重点的に取り組む期間を設定する。「どうやったら東札幌小学校のあいさつがもっと素敵になるか」「どうやって読書を広めていくか」などについて考えを交流し、子どもの声を基に活動を工夫させることで、自治的な活動を推進していきたい。</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

